

# 性的虐待を受けた子どもの性化行動に関する研究 —Child Sexual Behavior Inventory (CSBI) を用いた評価の試み—

藤澤 陽子  
(暁学園)

西澤 哲  
(山梨県立大学)

## <要 旨>

性的虐待は、精神・心理・行動的発達に深刻な影響を与えるため、より早期に発見しケアに当たる必要がある。しかし、性的虐待を受けた子どもは、自分から開示することが難しく、発見が遅れることも多い。そこで本研究では、性的虐待を受けた子どもに顕著に現れるとされている性化行動を明らかにし、日本版性化行動チェックリスト開発の可能性を探ることを目的として、児童養護施設で生活している6歳以上の女の子を対象にした調査を行い、CSBI (Child Sexual Behavior checklist: 子どもの性化行動チェックリスト、Friedrich) の中からDRSB項目(発達上一般的にみられる性化行動)とSASI項目(性的虐待を受けた子どもに特徴的な性化行動)を抽出した。その結果、6-9歳でDRSBが6項目、SASIが23項目、10-12歳でDRSBが2項目、SASIが20項目抽出された。アメリカにおける研究と比較したところ、年齢による文化差はみられたものの、性化行動の文化差はあまりみられなかった。今後、5歳以下の女の子と2-12歳の男の子にも調査対象を広げ、一般群との比較でカットオフ値を設定し、性的虐待を受けた子どもの性化行動を明らかにしていく必要がある。

## <キーワード>

子ども虐待、性的虐待、性化行動、アセスメント

### 【はじめに】

近年、我が国の児童相談所における性的虐待の相談処理件数は増加傾向にある(厚生労働省社会福祉行政業務報告、2005)。全虐待に占める性的虐待の割合は、アメリカでは15~20%(Petit&Curtis, 1977; Wang&Daro, 1998)であるのに対し、日本では2~5%(厚生労働省社会福祉行政業務報告、2005)と少ない。その理由として荒堀(1994)は、「性的虐待の存在を普遍的なものとして認めるには困難がともなう」ために発見が大変難しく、子ども自身が告白することも非常に難しいとした上で、我が国においても性的虐待は広く存在する可能性が高いと述べている。性的虐待が子どもの精神・心理・行

動的発達に与える影響は深刻であり、外傷後ストレス障害の症状に加え、性機能不全、性化行動、夜尿や頭痛などの身体症状、睡眠障害などが指摘されている(Finkelhor, 1985; Nadelson CC et al, 1982; 奥山, 1999; 岡本他, 2004)。したがって、性的虐待がもたらす心理的、行動的影響を把握することは、性的虐待の事実を明らかにし、子どもの状態に即したケアと支援を行うためにも重要である。

性的虐待を受けた子どもの症状の中でも、行動上の特徴である性化行動は、外傷後ストレス障害との関連が指摘され(Kendall-Tackett, Williams & Finkelhor, 1993)、他の

虐待とは圧倒的に違う症状とされている(奥山、2005)。

児童養護施設に入所する子どもを対象に行った調査でも、性的虐待を受けた子どものトラウマ行動として、性化行動が特徴的であると報告されている(西澤他、2005)。また、性化行動は他の精神・心理的症状と比較して減少しにくい症状であると報告されており(奥山、2002)、性化行動チェックリストの開発、及びその結果を基にした支援モデルの構築が必要である(Finkelhor & Browne, 1985; Friedrich, 1993b, 2001)。しかし、日本ではこれまで性的虐待を受けた子どもの保護ケース自体が少なく、性的虐待の影響による性化の行動研究は十分とはいえない。厚生労働省社会福祉行政業務報告によれば、平成16年度の児童相談所における性的虐待の相談処理件数はついに1000件を超えた。そこで、本研究では児童養護施設に入所している子どもを対象とし、Friedrich(1992)が開発したCSBI(Child Sexual Behavior Inventory)を用い、性的虐待を受けた子どもの性化行動を明らかにした上で、日米の性化行動を比較検討し、日本版性化行動チェックリストの開発の可能性を探る。

## 【方法】

東海、近畿、北陸地方を中心とした175箇所の児童養護施設に入所する6歳以上の女子を対象として郵送調査を実施した。対象となる子どもは、性的虐待を受けた子ども(性的虐待群)、性的虐待の疑いがあるが、子どもからの開示がない等の理由で性的虐待を受けたと判断できない子ども(性的虐待疑い群)、対象群として、同年代、同数の性的虐待を受けていない(他の

虐待もあまり受けていない)子どもの3群とした。CSBI(Child Sexual Behavior Inventory; Friedrich, 1991)は、対象年齢を2-12歳としているが、わが国では現在2-5歳で性的虐待を受けて保護された子どもが少なく、行動上の特徴などを十分に検討できないと考えられたため、本研究ではこの年齢層の子どもを調査の対象から除外した。

調査票は、年齢、保護の経緯、性的虐待歴、子どもからの性的虐待の開示など子どもの基本属性に関するフェースシート、虐待経験の種別及び程度を評価するための「虐待経験尺度: AEI-R」(西澤他、2005)、トラウマを受けた子どもに特徴的な行動を評価するための「子どものトラウマ行動チェックリスト: ACBL-R」(西澤他、2005)、最近または過去6ヶ月以内の子どもの性化行動の内容及び頻度を評価するための「Child Sexual Behavior Inventory: CSBI」(Friedrich, 1991)とした。調査票は、直接子どもを担当するケアワーカーに記入してもらい、CSBIについては担当とは性の異なるケアワーカーにも記入してもらった。

## 【結果】

### (1) 子どもの基本属性の分析

性的虐待群の子どもについては53件、性的虐待疑い群については28件、対象群については53件の回答を得た。各群の平均年齢は、性的虐待群が13.4歳、性的虐待疑い群が11.3歳、対象群が12.2歳であった(表1)。

性的虐待群で、その有無を児童養護施設入所以前に認識されていたケースは32件、入所後に認識されていたケースは18件、未記入が3件であった。性的虐待認識時の平均年齢は

表1：群別度数分布と平均年齢

|         | 年齢群         |               |               |              | 合計(n) | 平均年齢 |
|---------|-------------|---------------|---------------|--------------|-------|------|
|         | 6-9歳<br>(n) | 10-12歳<br>(n) | 13-15歳<br>(n) | 16歳以上<br>(n) |       |      |
| 性的虐待群   | 8           | 12            | 17            | 16           | 53    | 13.4 |
| 性的虐待疑い群 | 4           | 17            | 4             | 3            | 28    | 11.5 |
| 対象群     | 11          | 19            | 14            | 9            | 53    | 12.3 |

10.5歳、性的虐待の始まった平均年齢は8.7歳、一時保護の平均年齢は10.4歳であった。

性的虐待について誰かに開示したケースは、36件(開示時の平均年齢11.4歳)であった。開示した相手は、児童養護施設職員が最も多く、次いで児童相談所職員、学校教諭、母、友人・知人の順に多かった。性的虐待の加害者は、実父が最も多く、次いで継父/養父、母の恋人/内縁の夫が多かった。加害者のうち17件(32%)は加害を認めており、19件(36%)は否認であった。また、34件(63%)の加害者は児童相談所または児童養護施設により子どもとの接触禁止、または現在服役中、離婚等の理由で子どもとの接触がないが、9件(17%)は性的虐待が発覚する以前と変わらない状況であり、そのうち4件(8%)は、児童養護施設等からの外泊・外出等で被害を受けた子どもとの接触が続いていた。加害者以外の親は実母が大半であり、そのうち17件(32%)は性的虐待の事実を認め、12件(23%)は否認、その他は不明であった。

性的虐待疑い群の多くは、子どもからの開示がなく、性化行動や家族の話等で性的虐待が疑われていた。幼児期に開示したケースもあるが、その後子どもが話さなくなっていた。また、親の性交渉の目撃については、この群に分類されているものが多かった。

性的虐待を受けた子どもへのケアに関する

困難点としては、異性(入所男児、ケアワーカー、ボランティア、実習生)との対人距離が近くベッタリと寄って行ってしまう、異性に限らず対人距離が近い、母子関係の問題等が挙げられた。また、今後性的虐待を受けた子どもへのケアで必要なこととして、自分の身体を大切にして安心した生活を送れる環境作り、性教育、性的虐待についての整理、二次被害の防止、カウンセリング等の専門家の関与、十分なケアを行うための職員配置の見直し等が挙げられた。

## (2) 子どもの虐待経験の検討

性的虐待群、性的虐待疑い群、対象群間でAEI-Rの下位尺度得点(身体的虐待、ネグレクト、心理的虐待、性的虐待、DVの目撃)と総得点について一要因分散分析を行った(表2)。その結果、性的虐待因子と心理的虐待因子、総得点で性的虐待群、性的虐待疑い群が対象群より有意に高かった。身体的虐待、ネグレクト、DVの目撃の3因子では3群間に有意差は認められなかった。

AEI-Rの下位尺度の中で、性的虐待尺度に得点の付いたものは、全体で70件であった。

## (3) 子どものトラウマ行動の分析

性的虐待を受けた子どもが、トラウマによる影響でどのような行動化が起こっているのかを検討した。性的虐待群、性的虐待疑い群、対

表 2：各群の AEI-R 得点の平均と標準偏差および一要因分散分析結果

|                   | 身体的虐待               | ネグレクト               | 心理的虐待                 | 性的虐待                   | DV の目撃              | 総得点                   |
|-------------------|---------------------|---------------------|-----------------------|------------------------|---------------------|-----------------------|
| 性的虐待群             | 2.70 (3.23)         | 9.60 (8.42)         | 8.94 (4.26)           | 3.58 (3.10)            | 3.67 (3.71)         | 27.24 (16.69)         |
| 性的虐待疑い群           | 2.70 (3.44)         | 9.85 (6.70)         | 9.26 (4.31)           | 2.67 (2.90)            | 2.63 (3.94)         | 26.81 (13.61)         |
| 対象群               | 1.37 (3.09)         | 6.98 (7.28)         | 6.51 (4.85)           | 0.25 (0.87)            | 2.22 (2.73)         | 17.02 (13.61)         |
| 分散分析結果            | F(2, 126)<br>=2.676 | F(2, 123)<br>=1.931 | F(2, 124)<br>=4.875** | F(2, 125)<br>=25.111** | F(2, 120)<br>=2.341 | F(2, 127)<br>=7.132** |
| 多重比較<br>(Tukey 法) | n. s.               | n. s.               | 対<性、疑                 | 対<性、疑                  | n. s.               | 対<性、疑                 |

表 3：各群のトラウマ行動得点の平均と標準偏差および一要因分散分析結果

|                   | 虐待的人間関係の再現性         | 力による対人関係             | 自身の欠如                | 注意/多動の問題              | 学校不適応               | 感情の抑制/抑圧              |
|-------------------|---------------------|----------------------|----------------------|-----------------------|---------------------|-----------------------|
| 性的虐待群             | 6.56 (4.92)         | 6.73 (3.72)          | 5.60 (4.45)          | 4.50 (4.05)           | 2.52 (2.97)         | 3.44 (3.03)           |
| 性的虐待疑い群           | 7.21 (4.32)         | 7.43 (3.74)          | 5.96 (3.59)          | 6.71 (4.59)           | 1.96 (1.95)         | 3.68 (3.60)           |
| 対象群               | 5.23 (4.50)         | 5.26 (3.98)          | 3.83 (3.64)          | 2.92 (2.92)           | 1.85 (3.07)         | 2.30 (2.73)           |
| 分散分析結果            | F(2, 130)<br>=1.994 | F(2, 130)<br>=3.482* | F(2, 130)<br>=3.720* | F(2, 130)<br>=9.342** | F(2, 130)<br>=0.801 | F(2, 130)<br>=2.625** |
| 多重比較<br>(Tukey 法) | n. s.               | 対<疑                  | n. s.                | 対、性<疑                 | n. s.               | n. s.                 |

|                        | 希死念慮/自傷性             | 反社会的逸脱行動              | 食物固執                  | 感情調整障害              | 危機項目                  | 総得点                   |
|------------------------|----------------------|-----------------------|-----------------------|---------------------|-----------------------|-----------------------|
| 5.3883 (98)            | 3.15 (2.99)          | 1.13 (2.09)           | 3.27 (2.81)           | 2.96 (3.25)         | 4.46 (4.10)           | 46.06 (26.40)         |
| 5.43 (2.73)            | 3.68 (3.45)          | 2.46 (2.56)           | 2.75 (2.49)           | 2.82 (2.71)         | 4.89 (3.07)           | 51.79 (20.38)         |
| 2.64 (2.43)            | 2.09 (2.41)          | 0.91 (1.81)           | 1.45 (2.03)           | 1.75 (2.43)         | 2.83 (4.25)           | 30.00 (23.79)         |
| F(2, 130)<br>=11.989** | F(2, 130)<br>=3.269* | F(2, 130)<br>=5.426** | F(2, 130)<br>=7.464** | F(2, 130)<br>=2.678 | F(2, 130)<br>=3.317** | F(2, 130)<br>=9.383** |
| 対<性、疑                  | n. s.                | 対、性<疑                 | 対<性                   | n. s.               | n. s.                 | 対<性、疑                 |

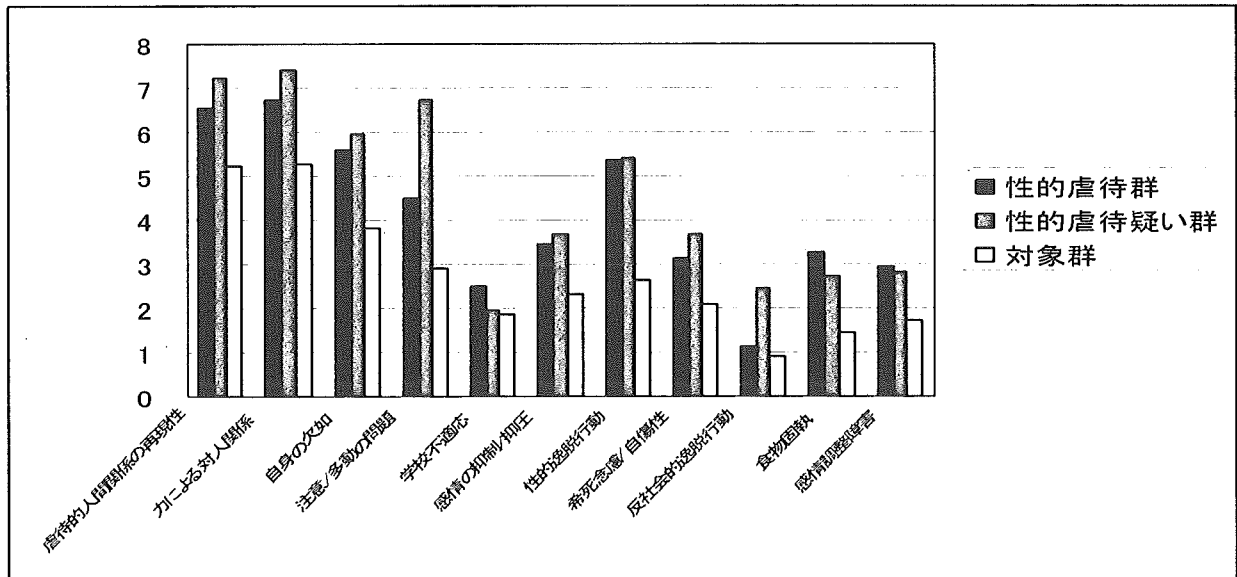


図 1：各群のトラウマ行動得点の平均

対象群の 3 群間で、ACBL-R の 11 尺度(虐待的人間関係の再現傾向、力による対人関係、自信の

欠如、注意/多動の問題、学校不適応、感情の抑制/抑圧、性的逸脱行動、希死念慮/自傷性、

反社会的逸脱行動、食物固執、感情調整障害)と危機項目、総得点について一要因分散分析を行った(表3)。その結果、「力による対人関係」で性的虐待疑い群が対象群よりも有意に高く、「注意/多動の問題」と「反社会的逸脱行動」で性的虐待疑い群が対象群、性的虐待群よりも有意に高かった。また、「食物固執」は性的虐待群が対象群よりも有意に高く、「性的逸脱行動」と総得点では、性的虐待疑い群と性的虐待群が対象群よりも有意に高かった。有意差が認められなかったのは、「虐待の人間関係の再現性」、「自信の欠如」、「学校不適応」、「感情の抑制/抑圧」、「希死念慮/自傷性」、「感情調整障害」、「危機項目」の7尺度であった。

#### (4) 子どもの性化行動の分析

CSBIの対象年齢は2-12歳であるが、本研究では2-5歳を対象から除外したため、6-12歳のみを分析の対象とした。Friedrich(1992)は、CSBIの開発の中で性的虐待群と一般群を分析の対象としているため、性的虐待群(N=32)をSA群、対象群(N=27)をNSA群として分析を行った。なお、性的虐待疑い群の中から、AEI-Rの性的虐待尺度に得点の付いたケースを性的虐待群に加えた。

CSBIの38項目について、Friedrich(1992)は、虐待群、年齢群別に各項目の行動出現率を求めた上で、対象群で出現率が20%以上の項目を「一般的に発達上見られる性化行動」(DRSB: Developmentally Related Sexual Behaviors)とし、DRSBを除いた項目のうち、性的虐待群の方が対象群よりも5%以上出現率の多い項目を「性的虐待を受けた子どもに特徴的な性化行動」(SASI: Sexual Abuse Specific

Items)としている。そこで本研究では、Friedrichの研究方法をもとにし、DRSBとSASI項目を抽出した(表4)。

その結果、6-9歳の女の子では、38項目中、3、4、6、9、11、12、13、14、17、19、20、21、22、23、25、27、28、29、30、32、33、34、36の23項目が性的虐待を受けた子どもに特徴的な項目(SASI)として抽出された。また、一般的にも発達上見られる項目(DRSB)として、1、2、7、15、35、37の6項目が抽出された。10-12歳の女の子では、38項目中、3、4、5、6、9、12、13、15、17、19、20、21、23、26、28、29、30、32、34、35の20項目が性的虐待を受けた子どもに特徴的な項目(SASI)として抽出され、一般的にも発達上見られる項目(DRSB)として、2、7の2項目が抽出された。

CSBI総得点、DRSB得点、SASI得点の平均と標準偏差を表5に示す。総得点の年齢群別平均得点は、NSA群の6-9歳では2.80、SA群の6-9歳では11.38、NSA群の10-12歳で3.0、SA群の10-12歳で9.67であった。DRSB得点の年齢群別平均得点は、NSA群の6-9歳では1.80、SA群の6-9歳では3.63、NSA群の10-12歳で1.00、SA群の10-12歳で1.96であった。SASI得点の年齢群別平均得点は、NSA群の6-9歳では0.90、SA群の6-9歳では7.50、NSA群の10-12歳で1.35、SA群の10-12歳で6.79であった。

フェースシート記入時の性的虐待群、性的虐待疑い群、対象群の3群について年齢別に総得点の平均値と標準偏差を表6に示す。性的虐待疑い群でケース数の少ない年齢群があったため、一要因分散分析はできなかったが、性的虐待群は、6-9歳群で11.38と最も高く、その後10歳以降は6点台を推移していた。性的虐待

表4：CSBI 項目の虐待群と年齢群別の性化行動出現率

| 項目  | 年齢群                       |                          |              |             |
|---|---------------------------|--------------------------|--------------|-------------|
|   | 6-9 歳                     |                          | 10-12 歳      |             |
|   | NSA <sup>1</sup> 群<br>(%) | SA <sup>2</sup> 群<br>(%) | NSA 群<br>(%) | SA 群<br>(%) |
| 1 異性の洋服を着る                                | *20.0                     | 0.0                      | 5.9          | 8.3         |
| 2 人の非常に近くに立つ                              | *30.0                     | 50.0                     | *29.4        | 70.8        |
| 3 異性になりたいと言う                              | 10.0                      | **25.0                   | 5.9          | **20.8      |
| 4 人前で性的部位を触る                              | 0.0                       | **37.5                   | 5.9          | **29.2      |
| 5 手でマスターベーションをする                          | 0.0                       | 0.0                      | 0.0          | **8.3       |
| 6 人の絵を描くとき性的部位を描く                         | 0.0                       | **25.0                   | 0.0          | **8.3       |
| 7 母親や他の女性の胸を触ろうとする                        | *20.0                     | 62.5                     | *23.5        | 29.2        |
| 8 おもちゃや物(毛布、枕、プラスチック製品)でマスターベーションする       | 0.0                       | 0.0                      | 0.0          | 4.2         |
| 9 他の子どもの性的部位を触ろうとする                       | 0.0                       | **12.5                   | 5.9          | **20.8      |
| 10 他の子どもや大人とセックスしようとする                    | 0.0                       | 0.0                      | 0.0          | 0.0         |
| 11 他の子ども・大人の性的部位に口をつける                    | 0.0                       | **25.0                   | 0.0          | 0.0         |
| 12 家(施設)で自分の性的部位を触る                       | 0.0                       | **37.5                   | 0.0          | **20.8      |
| 13 大人の性的部位に触る                             | 0.0                       | **37.5                   | 0.0          | **20.8      |
| 14 動物の性的部位に触る                             | 0.0                       | **12.5                   | 0.0          | 0.0         |
| 15 性的声(ため息・うめき・深い声)を出す                    | *20.0                     | 25.0                     | 5.9          | **20.8      |
| 16 他の人に自分と性的行為をするように頼む                    | 0.0                       | 0.0                      | 0.0          | 0.0         |
| 17 人や家具に身体をこすりつける                         | 0.0                       | **25.0                   | 5.9          | **29.2      |
| 18 性器や肛門に物を入れる                            | 0.0                       | 0.0                      | 0.0          | 0.0         |
| 19 全裸の人や裸の人を見ようとする                        | 0.0                       | **37.5                   | 11.8         | **29.2      |
| 20 人形やおもちゃの動物がセックスしているようにする               | 10.0                      | **25.0                   | 0.0          | **12.5      |
| 21 大人に自分の性的部位を見せようとする                     | 10.0                      | **25.0                   | 5.9          | **16.7      |
| 22 全裸の人や一部だけ衣服を身につけている人の写真を見ようとする         | 0.0                       | **25.5                   | 11.8         | 8.3         |
| 23 性的行為の話をよくする                            | 10.0                      | **25.0                   | 11.8         | **20.8      |
| 24 よく知らない大人とキスをする                         | 0.0                       | 0.0                      | 0.0          | 0.0         |
| 25 大人がキスをしたり抱き合うとびっくりする                   | 0.0                       | **12.5                   | 11.8         | 8.3         |
| 26 よく知らない男の人と過度に親しくなる                     | 10.0                      | 12.5                     | 0.0          | **33.3      |
| 27 よく知らない他の子どもとキスをする                      | 0.0                       | **12.5                   | 5.9          | 0.0         |
| 28 いちゃついた話し方をする                           | 0.0                       | **12.5                   | 11.8         | **29.2      |
| 29 嫌がっているのに他の子どもの衣服を脱がす(パンツを下ろす、シャツを脱がす等) | 10.0                      | **37.5                   | 11.8         | **20.8      |
| 30 全裸やセックスのTVや映画を見たがる                     | 0.0                       | **12.5                   | 0.0          | **16.7      |
| 31 キスのとき自分の舌を相手の口に入れる                     | 0.0                       | 0.0                      | 0.0          | 0.0         |
| 32 あまりよく知らない大人と抱き合う                       | 0.0                       | **12.5                   | 5.9          | **20.8      |
| 33 他の子どもに自分の性的部位を見せる                      | 0.0                       | **12.5                   | 5.9          | 8.3         |
| 34 誰か他の大人の衣服を脱がそうとする                      | 10.0                      | **25.0                   | 0.0          | **12.5      |
| 35 異性に大変興味を示す                             | *20.0                     | 12.5                     | 11.8         | **50.0      |
| 36 母親や他の女性の胸に口をつける                        | 10.0                      | **50.0                   | 11.8         | 4.2         |
| 37 同年齢の他の子どもより多くセックスについて知っている             | *20.0                     | 25.0                     | 11.8         | 8.3         |

<sup>1</sup> NSA 群：対象群

<sup>2</sup> SA 群：性的虐待群

\*：DRSB 項目

\*\*：SASI 項目

表 5 : CSBI 総得点、DRSB、SASI 平均

|      | 6-9 歳           |               | 10-12 歳         |                |
|------|-----------------|---------------|-----------------|----------------|
|      | NSA 群<br>(n=10) | SA 群<br>(n=8) | NSA 群<br>(n=17) | SA 群<br>(n=24) |
|      | M(SD)           | M(SD)         | M(SD)           | M(SD)          |
| CSBI | 2.80            | 11.38         | 3.00            | 9.67           |
| 総得点  | (3.46)          | (12.48)       | (4.80)          | (9.30)         |
| DRSB | 1.80            | 3.63          | 1.00            | 1.96           |
|      | (2.49)          | (3.85)        | (1.37)          | (1.68)         |
| SASI | 0.90            | 7.50          | 1.35            | 6.79           |
|      | (1.20)          | (8.54)        | (2.94)          | (7.20)         |

表 6 : 3 群の CSBI 総得点の平均

|             | 6-9 歳            | 10-12 歳          | 13-15 歳         | 16 歳以上         |
|-------------|------------------|------------------|-----------------|----------------|
|             | M(SD)            | M(SD)            | M(SD)           | M(SD)          |
| 性的虐待群       | 11.38<br>(12.48) | 6.17<br>(5.98)   | 6.50<br>(5.13)  | 6.88<br>(9.17) |
| 性的虐待<br>疑い群 | 0.50<br>(1.00)   | 11.65<br>(10.31) | 10.50<br>(5.07) | 7.33<br>(9.45) |
| 対象群         | 2.55<br>(3.39)   | 2.68<br>(4.62)   | 5.36<br>(4.94)  | 1.56<br>(2.74) |

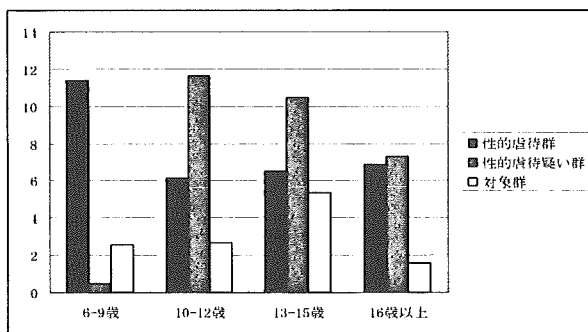


図 2 : 3 群の CSBI 総得点平均

疑い群では、6-9 歳は 0.50 と最も低く、10-15 歳では 10 点以上となり性的虐待群よりも高い得点となった。対象群は、13-15 歳で 5.36 と他の 2 群とあまり変わらない得点であったが、他の年齢群では低い得点となった。関わるケアワーカーの性別による子どもの性化行動の違いを検討するために、CSBI 総得点の平均を虐待群、年齢群別に比較したところ、全体的に女性ケアワーカーの方が高い得点であったが、性的虐待疑い群の 6-9 歳のみ、男性ケアワーカーの得点が女性ケアワーカーの得点と比べて高

かった。

### 【考察】

性的虐待を受けた子どもは、性的虐待が始まってから相談、保護までに時間がかかると言われてきたが（桐野、2004；岡本、2004）、本研究では性的虐待の開始平均年齢と保護平均年齢の差は、1.7 歳であった。近年、性的虐待の保護は早急に行われるようになってきているが、今回の研究では、施設入所後に性的虐待が明らかになったケースが 18 件（性的虐待群の 34%）あり、子どもが打ち明けていない場合や低年齢児の性的虐待を発見することの困難性も示唆された。

CSBI 総得点を年齢群別に比較した結果では、性的虐待疑い群は、10-12 歳と 13-15 歳の群で性的虐待群よりも得点が高かった。性的虐待群と性的虐待疑い群の違いが、子どもの開示の有無によるところが大きいことを考慮すると、子どもが性的虐待被害を開示し、言語化することで性化行動が減少する可能性を示唆している。また、性的虐待を開示することで、より適切な支援やケアを受けることにつながり、その結果性化行動が減少したとも考えられる。日本では、子どものトラウマティックな体験には触れずにケアを行ったほうがよいという考え方も多いが、今回の研究結果からは、子どもが虐待経験を開示できるような環境作りに心がけ、虐待経験によるトラウマの影響に即したケアを行うことの重要性も示唆している。

虐待経験尺度（AEI-R）を用い、児童養護施設入所以前の虐待体験を群別に比較した結果では、心理的虐待尺度と性的虐待尺度の得点で、性的虐待群、性的虐待疑い群ともに対象群より

も有意に高かった。今回、対象群として性的虐待を受けていない(他の虐待もあまり受けていない)子どもを施設側で選択してもらったが、身体的虐待、ネグレクト、DV の目撃等、重複して虐待を受けている子どもが多かった。このことは、近年児童養護施設に入所する子どもたちの多くが、何らかの虐待を重複して受けて来ていることを示唆している。

子どものトラウマ行動チェックリストの分析からも明らかなように、虐待を受けた子どもたちは様々なトラウマ行動を呈する。その中でも、「性化行動」と「食物固執」は性的虐待を受けた子どもに顕著な行動として現れていた。性化行動が性的虐待を受けた子どもたちに特化した行動であることは、これまでも様々な研究で述べられてきたが (Friedrich, 1993b; Finkelhor, 1985 ; Kendall-Tackett, Williams & Finkelhor, 1993; Hall, Mathews, & Pearce, 1997)、今後子どもたちの性化行動を「言葉にはできない子どもからのサイン」として注意を向け、性的虐待があったかもしれないという意識で子どものケアを進めていく必要があるだろう。また、性的虐待疑い群の子どもたちは、性的虐待群や対象群と比較して「力による対人関係」尺度の得点が有意に高く、「注意/多動の問題」と「反社会的逸脱行動」尺度で対象群よりも有意に高かった。このことは、性的虐待経験を言語化できずにいる子どもたちが、様々な行動化を起こしている可能性を示唆している。これらの行動化が顕著になると、対応に迫られて、性的虐待の疑いに目を向けることが困難になる可能性がある。行動化への対応と同時に、もう一度子どもの受けてきた虐待体験や生育歴に目を向け、子どもが言語化できるように支

援していく必要もあるだろう。

性的虐待を受けた子どもが、食物に固執することについては、心理的虐待の影響が考えられる。筆者の経験では、ネグレクトで十分に食事を取れなかった子どもたちは、保護から数ヶ月後には食事が十分に食べられると認識し、徐々に食物への固執が減少してくる。しかし、心理的虐待が重複したケースでは、単に物理的に食物を摂取する欲求ではなく、まるで心の空虚を埋めるかのように食物に固執する傾向がみられる。性的虐待は、その事実が家族の中で秘密にされ、ときには虐待者以外の親が知っていても助けてもらえず、打ち明けても信じてもらえないこともある。このように、子ども自身が一人で抱えざるを得ない心理的負荷が大きいことも、心理的虐待と相まって食物の固執に影響しているのかもしれない。

CSBI の分析結果をアメリカの研究結果と比較すると (Friedrich, 1992; Friedrich, 1993b; Friedrich, 2001; Friedrich, 2002)、アメリカでは SA 群の 6-9 歳平均総得点が 14.7 (日本では 11.4)、10-12 歳で 8.6 (日本では 9.7) であり、6-9 歳でアメリカの得点が高いものの、あまり変わらない結果となった。DRSB や SASI 項目の内訳は多少異なるものの、性的虐待を受けた子どもの性化行動に日米の文化差はほとんどみられなかった。

DRSB 項目を比較したところ、アメリカでは 2-5 歳で 2 (人の非常に近くに立つ)、7 (母親や他の女性の胸を触ろうとする)、12 (家で自分の性的部位を触る)、19 (全裸の人や裸の人を見ようとする) が抽出され、6-9 歳で 12、19 が、10-12 歳では 35 (異性に大変興味を示す) が抽出されている。本研究では、6-9 歳で 1 (異



性の洋服を着る)、2、7、15(ため息・うめき・深い声などの性的声を出す)、35、37(同年齢の他の子どもより多くセックスについて知っている)が、10-12歳で2、7が抽出された。

今回の研究では、ケース数が少なく、今後調査を進める上でこれらの項目も変わってくるのが予想される。しかし、年齢差はみられるものの、項目2、7、35はアメリカで抽出された項目と一致していた。このうち、項目2、7は、アメリカでは2-5歳の子どもでは一般的にみられる行動とされているが、6歳以上の子どもではSASI項目に含まれている。日本の児童養護施設では、6歳以上の子どもたちでもこれらの行動が一般的にみられているが、これは性的虐待だけではなく、他の虐待を受けた子どもたちにも特徴的な行動として抽出された可能性がある。また、今回の研究では、6-9歳でDRSB項目となった15、35は、アメリカではどの年齢群にも共通してSASI項目とされている。このことは、児童養護施設で生活する子どもたちの中に、性的虐待は明らかになっていないものの何らかの性的被害を受けている子どもがいることや、施設で性的虐待を受けた子どもたちと行動を共にする中で性的刺激を受けている可能性も考える必要があるだろう。

SASI項目の比較では、アメリカの2-5歳の項目と本研究の6-9歳の項目が概ね一致し、アメリカの6-9歳の項目と本研究の10-12歳の項目が概ね一致した。性化行動の内容に差はあまりないものの、年齢による文化差があることが示唆された。

ケアワーカーの性別による、CSBI総得点の検討では、性的虐待疑い群の6-9歳のみで、男性ケアワーカーの得点が高い結果となった。今

回の調査で、10-12歳の子どもが性的虐待を疑われるケースが多かったことを考慮すると、9歳以下の時期には女性ケアワーカーが気づき難い性化行動を、男性ケアワーカーが敏感に察知することで、より年齢の低い段階で子どもの性的虐待に疑いを持つことが可能となるかもしれない。また、虐待者と同性のケアワーカーは、自分の目の前で子どもが性化行動を起こす可能性が、異性のケアワーカーよりも高いかもしれないという意識を持つことも必要だと考えられた。

#### 【今後の課題】

児童養護施設で性的虐待を疑うきっかけに性化行動が挙げられる場合が多く、CSBIのカットオフ値を設定することで、自ら打ち明けるとの出来ない子どもたちの性的虐待を明らかにするきっかけとなると考えられる。本研究では、対象群のケース数が足りず、カットオフ値を設定することはできなかった。今後、さらに調査を進め、カットオフ値を設定していく必要がある。

また、考察でも触れたが、児童養護施設に入所している子どもたちは、家庭で様々な虐待を体験して来ており、対象群を一般群から抽出することも視野に入れて考える必要がある。

性的虐待を受けた子どもに性化行動が顕著に現れるということは、虐待的環境から離れて施設に入所した後も、再び性的被害を受けやすく、ときには加害に走ってしまう可能性もある。今後、性的虐待を受けて保護される子どもたちが増加し続ける可能性を考慮すると、性的虐待を受けた子どもへの性教育や生活におけるケア、事実確認の面接(Forensic Interview)、

心理療法等を充実させ、質を向上させていく必要がある。それだけでなく、住環境の改善や子どもをケアする施設職員の配置増加など、児童養護施設の最低基準の見直しも重要な課題となるであろう。

### 【参考文献】

- Petit, M., & Curtis, P. (1997). 1997 CWLA start book: Child Abuse and neglect: A look at the states. Washington, DC: Child Welfare League of America.
- Wang, C.-T., & Daro, D. (1998). Current trends in child abuse reporting and fatalities: Results of the 1996 annual State Survey. Chicago: National Committee to Prevent Child Abuse.
- Finkelhor, D., & Browne, A. (1985). The traumatic impact of child sexual abuse: A conceptualization. *American Journal of Orthopsychiatry*, 55, 530-541.
- Nadelson CC, Notman MN, Hannah Z et al, (1982): A Follow-Up Study of Rape Victims. *Am J Psychiatry* 139:1226-1270.
- 奥山真紀子 (1999) 性的虐待・性被害を受けた39例の子ども達に関する研究. 平成10年度厚生科学研究(子ども家庭総合研究事業)報告書(第5/6) pp. 333-341.
- 岡本正子他 (2004) 実態調査からみる児童期性的虐待の現状と課題. *子どもの虐待とネグレクト*. 第6巻2号. P. 157-174.
- Kendall-Tackett, K. E., Williams, L. M., & Finkelhor, D. (1993). The impact of sexual abuse on children: A review and synthesis of recent empirical studies. *Psychological Bulletin*, 113, 164-180.
- 西澤哲他 (2005) 子どもの虐待経験と虐待による行動特徴の評価に関する研究. H16年度厚生労働研究(子ども家庭総合研究事業)報告書. 児童福祉機関における思春期児童等における心理的アセスメントの導入に関する研究. P. 22-86.
- Friedrich, W. N. (1993b). Sexual victimization and sexual behavior in children: A review of recent literature. *Child Abuse & Neglect*, 17, 59-66.
- Hall, D., Mathews, F., & Pearce, J. (1997, January). The development of intrusive sexuality in children and youth: The DISC research project. Paper presented at the 11<sup>th</sup> annual conference on Responding to Child Maltreatment, San Diego, CA.
- Friedrich, W. N, et al. (1992) Child Sexual Behavior Inventory : Normative and Clinical Comparisons. *Psychological Assessment*, Vol. 4, No. 3, 303-311.
- Friedrich, W. N . (2002) Psychological Assessment of Sexually Abused Children and Their Families. Sage Publications, Inc.
- Friedrich, W. N , et al. (2001) Child Sexual Behavior Inventory: Normative, Psychiatric and Sexual Abuse Comparisons. *Child Abuse & Neglect*.
- 桐野由美子 (2004) 国際シンポジウム「性的虐待: 京都からの挑戦」を企画して. *子どもの虐待とネグレクト*. 第6巻2号. P. 147-149.
- 荒堀憲二他 (1991) 家族内性愛に関する研究, *思春期学* 9巻3号, P. 290-295.